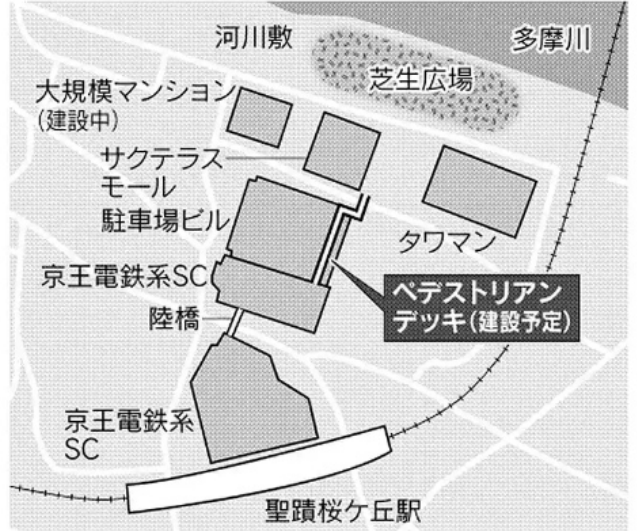


# 聖蹟桜ヶ丘進む再開発

## 多摩川近くにタワマンや商業施設

駅から河川敷へのアクセスを改善し、回遊性を高める



多摩川でSUPを楽しめる(写真上)。東京建物が建設したタワマン⑤の隣の商業施設で、京王電鉄が1日にアウトドアフィットネスクラブを開業した(いずれも東京都多摩市)



京王線聖蹟桜ヶ丘駅(東京都多摩市)近くの多摩川河川敷で再開発が進んでいる。東京建物がタワーマンションや商業施設を昨秋から順次建設し、多摩市は芝生広場などを整備。同市は京王電鉄など地元企業と若い世代を呼び込むイベントを開くなど一帯を活性化しようとしている。

「自然調和のアクティブライフを提供します」。京王電鉄は1日、多摩川を望む商業施設に

スタンドアップパドルボードアとアウトドアを組み合わせるよう「かまちづくり」制度に河川敷エリアを申請し、20年に登録。京王電鉄や地元企業と協力し、キッチンカーの出店やキャンプ、SUP、ヨガなどの体験イベントを昨秋や今夏に開催してきた。

「自然調和のアクティブライフを提供します」。京王電鉄は1日、多摩川を望む商業施設に

## 多摩市、郊外型生活PR 若い世代呼び込む

の駐車スペースも設け、10月から供用を始めた。ただイベントがない時期の出入は限られる。にぎわいを日常的に持続できるかが課題だ。

河川敷は同駅から徒歩6分の近さだが、オフィスビルや駐車場を迂回して狭い歩道を通る必要がある。多摩市や京王電鉄は、駅ビル2階からサクタラスモールまでを直線的に結ぶペDESTリアンデッキや歩道橋を23年度中に整備し、駅からの回遊性を高める計画。同社開発事業本部の北田明課長は「24年4月に駅周辺で開かれる『せいせき桜まつり』までに完成させたい」と意気込む。

多摩市は多摩ニュータウンや桜ヶ丘住宅地など、戦後開発された大規模宅地を中心に住民の高齢化が課題になっている。多摩川河川敷の再開発で子育て世代らに郊外型ライフスタイルの魅力をアピールし、関係人口の増加や移住・定住につながる狙いだ。

(堀江耕平)

東京